

外国人被災状況中間報告書

1995. 3. 20.

外国人地震情報センター

1. はじめに

未曾有の被害を出した阪神・淡路大震災から2か月が過ぎたが、いまだに被災状況の全貌は明らかでない。こと外国人については家屋への被害はもちろん、その人的被害についても、断片的なものしか報告されていない。

外国人住民を多く抱える大都市直下の震災としては、世界に類を見ないこの震災から私たちは多くを学ばねばならないが、震災前の状況を整理し、災害時に外国人住民がいかに被災し救出され、助け合ったかを、記録し伝えることが不可欠である。

不十分な情報の中で全体像を描くのは危険ではあるが、あくまでひとつの参考資料として利用されればと思っている。

2. 震災以前の居住状況

被害が甚大だった神戸市と明石市、及び西宮市・芦屋市などの阪神地域には、外国人登録者だけで約8万人が生活している。(別表-1)

これ以外に、三宮、新開地などの繁華街では韓国人やフィリピン人、長田区のケミカルシューズ関連の工場労働者を中心にイラン人やバングラデッシュ、パキスタン人東灘から尼崎の工業地帯にはペルー人を中心に、外国人登録をしていない住民が、少なくとも4～5千人はいたと推測されている。

地域的な特長として長田区は在日韓国・朝鮮人が多く、姫路市に難民定住促進センターがあるためベトナム人定住者も長田区を中心に千人近くが暮らしている。中央区などでは華僑やインド人が多く、貿易関係に従事しているケースがよく見られた。

灘区より東は学校が多く、中国人・韓国人を中心に留学生や日本語学校へ通う就学生が、おもに駅近くの老朽化した木造アパートに住んでいた。

フィリピン人は中央区や長田区などを中心に広く被災地全域に1,500人以上は居住していた。灘区・東灘区・芦屋市・西宮市の山手に続く高級住宅地にはアメリカ人を中心に3,000人近くが暮らしている。

ここ2,3年で急増した日系人を中心とするブラジル人やペルー人・ポリビア人などは工場労働者が多く中南米出身者だけで約3,000人が住んでいたと思われる。

3. 人的被害

<死者>	韓国・朝鮮	105	(144)
	中国・台湾	42	
	ブラジル	8	
	ミャンマー(ビルマ)	3	
	フィリピン	2	
	アメリカ合衆国	2	
	ペルー	1	
	スイス	1	
	オーストラリア	1	
	アルジェリア	1	
	合計	166	(205)

* 兵庫県警2月21日発表。カッコ内は民団・総連の発表。

* この他、住民票及び外国人登録が確認できない死亡者が3名。

* 氏名から外国人と判明した。(県警・県国際交流課)

- 韓国・朝鮮人は在日期间が長く、日本人と同じく高齢の犠牲者が多い。

- 中国人は留学生・就学生の犠牲者が多い。

- ブラジル人は会社の寮が倒壊し、犠牲となった。

<負傷者> 全体数は把握できない。2月6日に厚生省が発表した負傷者数は29,912人(大阪府を含む)。

外国人で入院に至った重傷者で外国人地震情報センターが把握しているのは次のとおり。

ブラジル	4
ペルー	3
中国	2
韓国	1
ビルマ	1
<u>アメリカ合衆国</u>	<u>1</u>
合計	12

<行方不明> 『安否が確認できない』という意味での行方不明者はかなりの数になるが、厳密な意味での行方不明者とは言えない。
偽名を名のっていることも多く、確認は不可能。

4. 住家被害

これも全体数は把握不可能。厚生省の同資料では、住家被害は全壊・半壊だけで、211,845世帯（大阪府を含む）。

住家が被災した外国人は、中国人・韓国人を中心に留学生・就学生で600人以上
その他フィリピン人約150人、ベトナム人約120人、ペルー人約70人、その他、少なくとも100世帯以上が被災している。

5. 支援活動

外国人は障害者・高齢者と並んで『震災弱者』と呼ばれる。

外国人が『震災弱者』である理由は、言葉の問題と健保制度、入管法などにより日本人より法の保護が受けられないことから生じる問題による。

被災地において、外国人被災者の支援活動を行っている団体は次のとおり。

ー地元NGO救援連絡会議／外国人救援ネットー

地元で救援活動をする市民グループの横のつながりを目指す連絡会議の6つの分科会のひとつ。中山手教会、鷹取教会、学生青年センター、地震情報センターなどが参加。代表は鷹取教会・神田神父（030-846-6359）

－カトリック大阪教区救援対策本部－

外国人班をおき主に中南米、フィリピン人のケアにつとめる。中山手教会（神戸市中央区：078-271-1217）のシスターマリアが担当。

－神戸学生青年センター－

被災した留学生・就学生に生活資金を援助している。宿泊施設も開放し、留学生の一時避難所として利用された。飛田館長（078-851-2760）

－被災ベトナム人救援連絡会－

日越友好協会、ベトナムистクラブなどが参加。主に長田区のベトナム人支援に当たる。代表は鷹取教会の神田神父。同じく長田区の南駒栄公園ボランティア本部（日比野：078-641-8932）では避難者の自治会と行政などとの仲介に当たっている

－外国人被災者支援連絡協議会－

韓国人法律救援センター、関西NGO協議会などが参加。外国人支援を行う各団体が集まり、日赤義援金など共通の課題について申し入れなどを行っている。KCCの李清一館長（06-731-6801）が事務局長。

－とよなか国際交流協会－

外国人被災者への仮住居を提供。（06-843-4343）

－外国人地震情報センター－

10か国語で対応する『母国語ホットライン』と13か国語で震災関係の情報を送る『ニュースレター』で外国人被災者へ情報提供。各支援団体間の情報ネットワークを担当。RINK、ワラボラなどが運営。（06-941-4793）